

令和4年度 瀬戸内市太陽のまち創生有識者会議 意見要旨

日時 令和4年7月26日(火)
午前10時00分～午後0時10分
場所 瀬戸内市役所 2階 大会議室

(1) 第2期瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略におけるKPIの状況について **資料1**
※意見無し

(2) 令和3年度地方創生関連事業の効果検証について

①地方創生推進交付金活用事業 **資料2**

ア) アートからはじめる歴史と文化を活かしたまちづくり事業

【委員】

せとうちファンクラブの会員が令和4年3月末時点で1,722人だが、この1年で増えたと捉えてよいのか。せとうちファンクラブ会員のうち、定期的に瀬戸内市を来訪している人はどのくらいいるか。

【秘書広報課】

せとうちファンクラブ会員は令和3年3月末時点では708人であり、1年間で約1,000人増加している。せとうちファンクラブ会員がどのくらい瀬戸内市に来訪しているかについては把握していない。

【委員】

コロナ禍の新しい生活様式の下、リモートワークや2地域居住が増えてきており、緩く関係を築く関係人口増加のチャンスが来ている。瀬戸内市には歴史・文化資源や、海洋環境など多くの地域資源があるので、移住のプロモーションと合わせて、地域資源を活用したプロモーションも行って、関係人口の獲得を行っていただきたい。

【企画振興課】

関係人口は地方創生を進める上で重要な人材だと認識している。今後も関係人口獲得に向けて取り組んでいきたい。

【委員】

シティプロモーションや移住プロモーションのターゲットをどの程度絞っているのか。ターゲット戦略があれば教えてほしい。

【秘書広報課】

主なターゲットは、東京圏としている。

【委員】

大学生に意見聞いたところ、大阪中心とした関西でプロモーションを行ってはどうかとの意見があった。大阪や神戸など近いところから関係人口を深めていくアプローチも必要ではないか。市内のエリアを分けてアプローチするなど、ターゲット戦略をより明確にした方が良い。若い層をターゲットにするのであれば、インスタライブやYouTube 広告など SNS での発信が必要。

【企画振興課】

それぞれのライフスタイルが違うため、そこに合わせた形が望ましいと考えている。近郊であれば2地域居住の可能性もより広がると思うので柔軟に取り組んでいきたい。

イ) 子どもと過ごす瀬戸内市ライフプロジェクト

【委員】

現在、子どもの貧困問題など弱い立場の子どもたちが増えているが、その弱い子どもたちを受け入れるまちになれば、家族が増え、人口増加につながると思う。弱い子どもやひとり親家庭などに対するきめ細かい支援が必要ではないか。本事業で対象としている「子ども」の定義を教えてください。

【こども政策課】

本事業は赤ちゃんからお年寄りまでを対象としており、「子ども」の定義も大変広く捉えている。「こどもひろば」は就学前の子どもが多く参加しているが、弱い立場の子どもを含めて、様々な立場の方に外遊びを楽しんでいただけるよう工夫している。

【委員】

「こどもひろば」には、赤ちゃんからお年寄りまですべての人が子どもの気持ちになれる、癒される、交流し合えるというような複雑な意味が込められている。この事業の中で、邑久駅前に子育て世代が憩える場や、子ども達が滞在できるスペースを展開できないか。

【こども政策課】

恵まれた自然環境も含めて、瀬戸内市に今あるものを感じてもらうことを切り口「こどもひろば」を展開している。「こどもひろば」は遊ぶということだけではなく、色々な事業と連携して取り組む体制が出来ている。ハードの整備も含めて、未来の子どもたちが繋がるような環境づくりを検討していきたい。

【委員】

外遊びの根拠をもって取り組んでいるということを外部にアピールしていくべき。外遊びがなぜ良いのかを研究し、ワンランク上のグレードでアピールすれば、そういったことに興味のある子育て世代が移住してくると思う。全国的にも、行政が子どもの遊びの環境づくりに取り組んでいることは珍しく評価されているので、更なる次のステップに進んでいただきたい。本事業は3年目になるが、子育て世代からの反響などのデータをどのように収集し、取り組んだ結果をどう評価するのか。

【こども政策課】

市民の評価は非常に重要であるため、評価の方法を今後検討していきたい。

【委員】

大学生に協力してもらい、QRコードを配付する方法のアンケートを実施してはどうか。

【委員】

小さい子どもがいる場合、子どもが遊んでるところを保護者が見守るスペースが必要。子どもも親同士も対話もできる環境を作っていただきたい。

ウ) 移住交流人口拡大のためのリモートワークタウン構築事業

【委員】

瀬戸内市には電車の待ち時間に仕事ができる場所がない。主要な駅の近くの飲食店などでオンラインミーティングができる環境が整うと良い。小規模な地域でも、そういったサービスが利用できれば誘客につながる。

【企画振興課】

ご意見を参考にさせていただく。瀬戸内市にリモートワークに来る人は、作業をガツガツするというよりは、景観の良い場所でアイデアを得たり、地域の人との交流の中で何か新しい発見を求めたりする人が多い。まちの特色も踏まえて、どのようなコワーキングが必要であるかを検討していきたい。

【委員】

前島の取組は非常に魅力的だが、フェリー料金が負担になるのではないかと。

【企画振興課】

前島を利用いただく方については、車やレンタサイクルを用意している。一方で、市内全体でのリモートワーク推進においては、交通手段が課題と感じており、方策を検討していきたい。

②地方創生汚水処理施設整備推進交付金活用事業 資料3

【委員】

牛窓の活性化を考えており、牛窓町西町の古民家の井戸水を活用した温泉を作りたいと考えている。そのためには下水道を整備していただきたいが、いつ頃の整備になるのか。

【下水道課】

令和9年度まで認可が決定しているため、早くても令和10年度以降となる。

③その他

【委員】

瀬戸内市では18歳まで子どもの医療費が無料であり、他の地域に比べて強みになる。こういった点をしっかりアピールして、住みやすさを理解してもらえれば、将来の定住に繋がっていくと思う。

【企画振興課】

昨年度から「子育て楽しむなら瀬戸内」というリーフレットを作成し、瀬戸内市の子育て支援施策をパッケージとしてアピールしている。こういったリーフレットなどを上手に活用し、さらにアピールしていきたい。

【委員】

錦海塩田跡地を活用したメガソーラー事業を行っているが、メガソーラー事業に付随したまちづくり事業を実施する計画もあったはず。現状はどうなっているのか。

【事務局】

メガソーラー事業の計画策定を行った当初は色々な事業を検討したが、まずは地域の安心・安全を守ることを第一として堤防の補強対策などを実施した。計画当初とは時代が変わってきているが、メガソーラー事業を活かしたまちづくりについて重視しており、土地の貸付料収入を財源として、子ども医療費の無償化や JR 駅前整備などのまちづくり事業を実施している。

【委員】

子どもに関する KPI が下がっていることが気になる。子育て支援策は充実しているが、その魅力が伝わっていないと感じる。明石市は子育て支援で全国的に話題になり、人口が増えて景気も回復しているので、瀬戸内市も取組をうまく PR していくことが重要だと思う。瀬戸内市では、外遊びの推進を柱として強く打ち出しているが、外遊びの良さを明確に打ち出してはどうか。また、個々の家庭でも外遊びがしっかりできる環境づくりも必要。

【こども政策課】

瀬戸内市の子育て支援策をまとめたリーフレットを市内全戸配布したり、県内のフリーペーパーに掲載したりしているが、関西圏などの人たちへも積極的にPRしていきたい。「こどもひろば」は地域との連携があって持続していくものだと考えており、市民が主体的に関わっていただけるよう取り組んでいきたい。外遊びのメリットは、子どもの体の発達や近視の減少などあるといわれているが、もっと体系的に打ち出せるよう検討していく。

【委員】

円安や物価高騰が進み、全体的な不安感が広がっている。輸入できなくなるかもしれないなかで、瀬戸内市や岡山県内である程度自給自足できるということが必要ではないか。そのために今後、農業者に求められることが大きくなると思うので、新規就農者に対する支援が充実していくと良い。

【企画振興課】

新規就農者の支援については、JAと協力をした指導・相談の対応や、農業に取り組みやすくなる支援事業を行っている。ご意見を参考に検討させていただく。

【委員】

瀬戸内市に邑久高校があることは非常に重要なことだと思うので、邑久高校に関する支援があるとよい。

【企画振興課】

邑久高校は市内唯一の高校であり、総合戦略でも「地域の発展に関わる人材育成に向けた邑久高校生徒への支援」を重点事業に掲げている。邑久高校が取り組んでいる地域学「セトリー」への職員派遣や、協働提案事業の実施など、邑久高校と連携して進めている。邑久高校の魅力向上と、地域の活性化につなげていきたい。

【委員】

移住者へどのようなサポートがあるかお聞きしたい。

【企画振興課】

移住希望者が瀬戸内市にお越しの際は、一緒に車に乗っていただき市内をご案内をしたり、地元の方や先輩移住者の方に会っていただいたりしている。また、農業したい人、起業したい人、それぞれ分野を分けて、希望に応じた個別のご案内を行っている。移住した後は、エリアは限定的であるが、地域の移住コンシェルジュが生活をサポートする仕組みもあり、行政と地域が連携して支援を行っている。

【委員】

現在、住宅の価格が高騰しており、住宅ローンの金利も上がっている。住宅を購入す

る際の補助制度などがあっても良いのではないか。

【事務局】

過去に、新築住宅に対する補助を検討したこともあるが、現在は別の角度で検討を進めている。家庭の太陽光発電設備や蓄電池、EV 自動車への補助を行うことで、結果的には住宅補助とゼロカーボンの推進につなげていきたい。

【委員】

観光面について、現在牛窓でマスキングテープのイベントを行っており、若者が集まっている。瀬戸内市の文化・歴史は当然魅力としてあるが、新しいものと融合させたアピールも必要だと思う。

【企画振興課】

観光面はコロナの影響で KPI の数値が落ちてる状況だが、岡山県が開催しているDestinyネーションキャンペーンをきっかけに、瀬戸内市を訪れて魅力を知っていただき、また来訪していただきたいと考えて取り組んでいる。地域素材をそのまま見せるのではなく、新たな魅力を加味して見せていきたい。今後は長船刀剣博物館でサブカルチャーとコラボした見せ方で刀剣を PR していく予定。

【委員】

瀬戸内市には児童養護施設がない。コロナ禍で居場所のない子どもが多くなっているため、ファミリーホームを作りたいと考えているので、市から支援をしていただきたい。

【委員】

瀬戸内市は自然環境が豊かであるのに、環境問題に関する取組が少ないように感じる。市民などの環境活動を支援し、市民の環境問題に対する意識を高めていただきたい。

(3) 第2期瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略の改訂について

資料4

※意見無し

以上